

令和 7 年度 看護師職能Ⅱ委員会 活動報告

■委員名

委員長：岸元知加子

副委員長：加藤美奈子

委員：大垣智子 井上阿貴子 構 恵子 坂田みどり 岡本清美 市橋正子
佐野和子 小野智子 坂本美春 松本明日香

■活動目標

1. 地域包括ケア推進に向け、三職能と連携した活動を充実させる。
2. 職能Ⅱ領域看護師の実践力向上を図る。

■委員会開催状況と検討内容

回	開催日	出席者	内容
1	令和 7 年 4 月 12 日	11名	・令和 6 年度活動報告、令和 7 年度活動計画について ・令和 7 年度研修及び企画書の検討
2	令和 7 年 7 月 5 日	11名	・令和 7 年度看護師職能Ⅱ委員会実施予定 ・令和 7 年度活動日程及び企画書の確認等
3	令和 7 年 8 月 2 日	11名	・三職能合同交流会の進行と役割分担について ・第 1 回全国職能委員長会報の他県の取り組み報告
4	令和 7 年 8 月 30 日	12名	・三職能合同交流会の役割確認、スケジュール確認等 ・保健師助産師看護師合同交流会開催
5	令和 7 年 9 月 20 日	10名	・8/30三職能合同交流会の振り返りと評価 ・11/15看護師職能Ⅱ交流会広報案・理事会報告
6	令和 7 年 10 月 4 日	10名	・看護師職能ⅠⅡ委員会合同交流会スケジュール確認、役割分担 ・看護師職能ⅠⅡ委員会合同交流会開催・11月交流会進行等
7	令和 7 年 11 月 15 日	11名	・看護師職能Ⅱ委員会交流会スケジュール確認、役割分担 ・看護師職能Ⅱ委員会交流会開催・10/4交流会振り返り等
8	令和 7 年 12 月 20 日	8名	・11/15看護師職能Ⅱ委員会交流会の振り返りと評価 ・令和 7 年度活動報告、令和 8 年度活動計画について
9	令和 8 年 1 月 24 日	10名	・令和 8 年度看護師職能ⅠⅡ合同と職能Ⅱ交流会の目的テーマ、 内容について・令和 8 年度活動目標について
10	令和 8 年 2 月 21 日	8名	・令和 8 年度活動計画目標について再検討 ・令和 8 年度交流会講師等内容について再検討
11	令和 8 年 3 月 21 日	9名	・第 2 回全国職能委員長会資料提示と一読 ・令和 8 年度看護師職能ⅠⅡ合同交流会企画書等作成

■活動内容	1. 保健師助産師看護師職能集会 日 時：令和7年6月19日 9：30～12：00 場 所：兵庫県看護協会会館（オンライン併用） 内 容：令和6年度看護師職能Ⅱ委員会活動報告 令和7年度看護師職能Ⅱ委員会活動計画 特別講演 テーマ：「ネガティブ・ケイパビリティを身につけて、不確実な時代を生き抜こう！」 ～モヤモヤを宝に変えて自分を大切に働こう～ 講 師：コミュニケーションサロン 勇気のしずく 代表 長谷静香 氏 参加者：129名（会場82名 オンライン47名） 2. 保健師助産師看護師職能合同交流会 日 時：令和7年8月30日 13：30～16：00 場 所：兵庫県看護協会会館（オンライン併用） 内 容：「地域を結ぶ看護職の力」 ～災害時における人工呼吸器装着児（者）への支援～ 講 師：あかし保健所 健康推進課 草野一恵 氏 参加者：129名（会場66名 オンライン63名） 3. 看護師職能ⅠⅡ委員会合同交流会 日 時：令和7年10月4日 13：30～16：30 場 所：兵庫県看護協会会館（オンライン併用） 内 容：「地域でつなぐ意思決定支援」～最期まで自分らしく生きるために～ 講 師：呼吸器内科医 緩和ケア認定医 竹中かおり 氏 4. 看護師職能Ⅱ委員会交流会 日 時：令和7年11月15日 13：30～16：30 場 所：兵庫県看護協会（オンライン併用） 内 容：「臨床推論を活かした看護実践」 ～多角的な視点を持ち、暮らしを支える看護を実践しよう～ 講 師：佛教大学 准教授 清水奈穂美 氏 参加者：43名（会場18名 オンライン25名）
■活動の評価	1. 地域包括ケア推進に向け、三職能と連携した活動を充実させる。 8月の保健師助産師看護師合同交流会には129名（会場66名 オンライン63名）が参加し、「災害」「地域を結ぶ」をテーマに関心が高まった。講師からは避難支援計画や地域支援ネットワークづくり、平時の備えや訓練の重要性が示され、地域包括ケアにおける災害訓練の理解が深まった。グループワークでは地域別の活発な意見交換が行われ、自助を強め共助を支える体制の重要性を共有し、新たな訓練や交流企画にもつながった。一方、グループワークでの人数が多く「声が聞き取りにくい」「テーマを事前告知してほしい」などの課題もあがった。10月の看護師職能ⅠⅡ委員会合同交流会では「地域でつなぐ意思決定支援」～最期まで自分らしく生きるために～をテーマにACPと多職種連携の重要性を再認識した。適切な人数でのグループワークで意見交換が円滑に進み、多職種間の価値観の違いへの理解や対話の重要性が学びとして挙げられたが、「医師との連携の難しさ」も指摘された。今後も合同交流会や研修会を通じ、

	看護職の連携を強化し地域包括ケアの充実を図る必要がある。また、オンラインの参加人数も多くなっており、意見交換等が円滑に進むよう工夫し、看護職が繋がる機会を提供したい。 2. 職能Ⅱ領域看護師の実践力向上を図る。 看護師職能Ⅱ委員会では、地域で働く看護職の交流と実践力向上を目的に、「臨床推論を活かした看護実践」をテーマとした研修会を開催した。広報の遅れがあったものの、当日は会場18名、オンライン25名、計43名の参加を得た。講義では、「暮らし全体を支える看護実践」を展開するための視点について学んだ。思い込みを排し、多角的に状況を捉える重要性が強調された。特に在宅領域では疾患のみならず環境、思い、家族、社会資源など多層的な情報を統合することで、よりの確で継続的な支援が可能となることを再認識した。グループワークでは事例検討を通じ、参加者同士で異なる視点を共有した。 看護師一人では見落としやすい要素も、複数の視点を組み合わせることで対象者のニーズを深く理解できることが明らかになった。また、在宅領域における臨床推論の重要性に改めて注目が集まり、生活の場では医療的判断に加えて「社会的視点」の統合が不可欠であるという認識が共有された。参加者は若手からベテランまで幅広く、「安心して意見を述べられた」「思考の偏りや経験に頼りすぎてはいけないと気づいた」「チームで推論を共有する必要性が理解できた」などの前向きな評価が寄せられた。アンケート結果では、97%から「今回の学びを活用できる」との回答を得ている。今回の課題として、在宅領域の看護職への広報の難しさが挙げられた。今後も委員会活動や交流会を通じて魅力を発信し、参加促進を図るとともに、地域看護職の実践力向上に継続して取り組むことが重要である。
■今後の課題	・職能Ⅱ領域の実践力向上と魅力発信 ・介護施設や地域で働く看護職員へ情報共有の拡大
■看護協会への提言・要望	・職能Ⅱ領域看護師に広く研修案内等が届くよう、兵庫県担当部署からの配信継続